

2024 年度第 9 回学校関係者評価報告書

実施日：2024 年 6 月 7 日（金）

北斗会看護専門学校

学校関係者評価委員会

2024年度 第9回 学校関係者評価委員会

日時：2024年6月7日（金）14：00～15：00

場所：学校図書室

I. 学校長挨拶及び趣旨説明

この4月から学校長となりました深尾です。法人には30年ほど勤めております。10年前から大阪市内にある当法人のほくとクリニック病院の院長として勤務しております。現在は院長と学校長を兼任しておりますが、10月からは専任となります。

今年度から皆様のお力をお借りして、よりよい学校運営に取り組んでまいりたいと思います。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

II. 委員及び参加者紹介

<委員>

委員長

学校周辺の地域に精通する地域住民または地元企業関係者として

未来SS義塾 豊中市保護区保護司会 地域での育成活動を行われている

山本 和央 様

関連業界等関係者として学校周辺の病院施設また、卒業生の受け入れ実績を有する病院の管理者である

医療法人篤友会 坂本病院

副看護部長 山口 順子 様

教育に関する分野の有識者、として

高槻市医師会看護学校

副学校長 辻 節子 様

…計3名

<学校教職員>

学 校 長 深尾 晃三

学校事務部長 濱田 潤

副 学 校 長 石川 美佐子

実習調整者 小林 愛

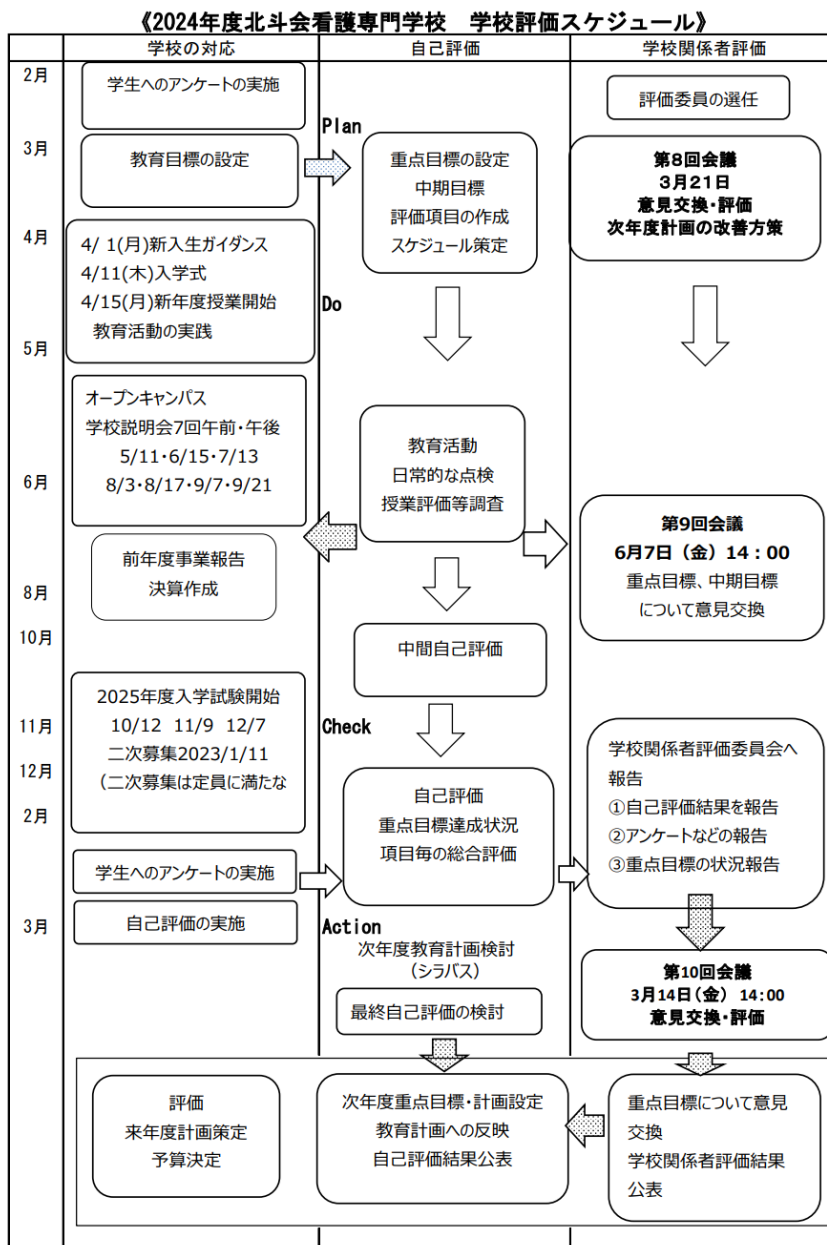
学 生 担 当 安部 由美子

…計5名

合計8名で構成されています。よろしくお願いいたします。

Ⅲ. 学校評価の事業計画及びスケジュールについて資料に基づき説明

—資料に基づき2024年度の学校評価のスケジュール概要説明—



本日は年2回ある中の今年度第1回目の会議となります。中期5か年計画、今年度の重点目標などご確認いただき、ご意見、アドバイスをいただくことで、よりよい学校運営となるよう目指していきたいと思っております。また、3月には学生アンケートを実施し、学校自己評価を行います。この結果を基に評価し、次年度運営に活かせるようご意見をいただける機会としたいと思います。

前年度の自己評価、学校関係者評価を受けて、中期5か年計画、今年度の重点目標を立案した。学校関係者評価をいただき、妥当性の有無と計画の追加修正を行う。

IV. 自己評価に基づく事業計画について

昨年度までの5か年計画が5年となり、新たに見直しを行いました。

本校の強みとなる、

- ・2年間で看護師資格取得
- ・全日制で学習に集中できる
- ・きめ細やかな学習支援により、国試合格率が毎年全国平均以上。合格率100%を目指す
- ・教員と学生の距離が近く学生満足度97.5~100%
(中期5か年計画 ビジョン・ありたい姿・願い・強み・現状・戦略 について資料提示している)

などを活かし、戦略を立て、取り組んでいきたいと思えます。

戦略としては、

1. 今年度より1年生、2年生ともに新カリキュラムで運営されることとなる。「思いやりと感性あふれる看護師を育成する」教育目的を達成できるよう教職員全体で取り組む。
 - 1) 行事活動、学校外活動、委員活動、異学年交流などの機会を大切にして成長の機会とする
 - 2) 学生の自律、一人一人の強みを発揮できる機会を大切にする
2. 学生の教育活動の中心的役割として学生担当制をとり学生を支援する
 - 1) 複数名で構成することで多角的に学生を捉え、1年2年共に担当することで異学年交流の機会を多くもつ
 - 2) 教科担当、講師等の意見を聞き、連携を図る
 - 3) 課題の早期解決に向けて、把握と計画立案に努める
3. 学生との関わりの中心となる学生担当教員間のコミュニケーションを充実させ、学生担当体制の充実、教育力の向上を図る。
 - 1) ミーティングや情報共有を有効に活用する
 - 2) 研修参加、教材研究のための時間を作る
 - 3) 互いの考えを伝え合う機会、看護は楽しいと語り合える時間を大切にする
 - 4) 基礎学力の向上に向けて計画的に取り組む

4. 学生のニーズに応えるキャリア教育の充実

- 1) 専門職としての意識を育てる機会を大切にする
- 2) 2年間通してビジョンワークの機会を持ち、成長を感じられるようにする
- 3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリアサポ）の充実
 - ・希望者就職 100%
 - ・大阪府内の就職率 80%
- 4) 看護師国家試験合格率 100%を目指した学習支援の充実

5. 「定員 40 名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は引き続き継続し、学生確保に向けて取り組む。

- 1) 受験者倍率 1.25 倍を目指す
 - ・補欠合格者、三次入学試験を設定し、入学希望者を確保する
 - ・オープンキャンパスの充実と情報発信
- 2) 学校訪問の拡充
 - ・法人と協力し学生及び将来病院職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
 - ・入学生の出身校への訪問

をあげています。

V. 重点目標の説明 ー資料に基づき重点目標の概要説明ー

全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場
～看護専門職としての学生一人一人を大切にしたい教育～

**病をもつ“ひと”をみる人のための 10 か条
を有する学生を育て、活力のある学校づくりを目指します。**

1. 重点目標について

今年度は1年生、2年生共に新カリキュラムの運営となり、授業計画の発展に向けて体制を整えていくこととなる。教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上を期待しつつ、学生の基礎学力の向上に向けて取り組みたいと思います。

2024 年度重重点目標は定着に向けて、昨年度に引き続き「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にしたい教育～」を挙げて取り組みます。年齢も背景も様々な本校の学生の特徴から多様性に配慮した関わりが必要となる中で、教員同士が連携して教育に当たりたいと考えています。そのため、前年度まではコロナ対策のために担任制にしていたものから、今年度から従来行っていた学生担当制として、複数の教員で学生を見ていく形に戻しました。いろんな教員が関わることで、学生が相談しやすい窓口を広げて、教員間で連携して支援に当たれることをねらっています。

方針・目標

1. 授業計画の立案、授業評価を教員間で行い情報の共有と教育内容の発展を図る。
2. 学校行事を従来に近づけ、学生間、学年間の交流を図り、思いやりと感性あふれる教育場面の充実を図る。
3. 基礎学力の向上に向けて支援する。
4. 教員一人一人のセルフマネジメント能力の向上により教育の質を高める

などをあげ、取り組んでいきます。

VI. 意見交換

山本：昨年度は1年生にこの地域で行われた敬老のつどいのボランティア活動に参加していただいた。とても良かった。今年度も是非、協力いただきたいと思う。今年度は敬老のつどいにもなかなか出てこられない方々の家を回ってお話を聞くなど職員とともに高齢者の話を聞いてもらえたらと計画している。よろしく願います。

石川：大変学びになっているので、今年度も参加させていただきます。

山本：今年度の国家試験の合格率は87.8%とここ数年の中でも一番低い水準で、足切りのある問題がちょっと厳しかったということをいろんなところから聞いている。やっぱり難しかったのでしょうか。何か昨年と違って対策をとっているか。

石川：足切りといわれる必修問題は必ず80%以上とれていないといけない問題です。その問題が一ひねりも二ひねりもある問題で、難易度が高い問題がこの必修という枠に入っているのはすこし厳しいかなと思いました。その枠以外の問題については十分合格水準を満たし、足切りがあった問題については1点足りなかったという状況でした。

問題のせいばかりにはできませんので、やはり、基本的な知識、確実な知識が必要であると感じます。

現在、1年生も解剖生理学の授業を担当していますが、聞くだけの授業では身に付きませんので、できるだけ自分で考えるように、自分の力で問題に取り組めるようにと掲示物を貼り、工夫しています。モチベーションをあげることや学習の仕方をまず身につけることは必要と考えています。まじめに取り組んでいますが、基礎力の差は大きいので、大変なところはあります。

安部：学生担当ですが、やはり入試の結果と解剖生理学の試験の結果はリンクしています。考えさせる授業をしていますが、高校まではそういった授業でなかったのが、高校の延長とっていると、少し授業についていけない学生もあり、難しいところがあ

ります。こぼれそうな学生には声をかけて、学習にむかわせるようにしています。早い時期に底上げが必要だと思います。

山本：確かに、早い時期からの学習への向かわせ方は大切ですね。自分も塾の講師をしているので、なかなか難しいところですね。昨年のアンケートで「校長先生の講義が分かりやすかった。もっと講義を受けたい」とありましたね。

学校長：前学校長は解剖生理学の専門でスペシャリストでしたが、なかなか私はそうはいかないでしょう。その中でも解剖生理学の授業をさせてもらって、学生の反応はよかったように感じます。質問にも来るし、真面目ですね。

山口：当病院では他校の学生ですが、実習生を受け実習指導を行っています。貴校の学生満足度が高いというところは、本当によく伝わってきます。私自身も卒業生で、先生方には育てていただいて、感謝しています。ここに挙げられている「強み」というところはまさにそうだなと思います。私自身、少しでもそれが返せるようにと思っています。

最近ではチームとしての力を求めるところが難しくなっていると感じています。コミュニケーションがとれなくて、患者さんのところに足が向かないという学生もいる。コミュニケーションは大事にしたいところです。社会に出てもきっと助かると思う。今はスマホで検索すると何でも出てくるという世の中でコミュニケーションをとらなくてもやっていけるということがそうさせるのかもしれない。

石川：本当にそう思います。今の時代の背景を考えると学生はそういった中で過ごしてきているので、難しいところはあります。しかし、人と関わる看護師という仕事をする上では必要な事ですので、どのようにそれを教えていくかは課題だと思います。いろんな体験をさせていくことは必要だと思います。

辻：私の学校は以前に2年課程の定時制の学校もありました。准看護師の資格を持った後に進学する課程です。その時から、中にはこちらの北斗会に行きたいと希望する学生もいました。今は2年課程は泣く泣く廃止となり、准看護師養成所のみ残っています。本校は准看護師を育成するだけでなく、その先にある看護師を育てるためにあると考えています。

本校の学生の働きながら学ぶという学生の難しさはあります。また、高校卒業後入学してくる学生はやはりコミュニケーションが難しいと感じています。

解剖生理学の学習もそうですが、看護技術には関心があります。どちらも臨床に向かうためには必要な事なので、高めていかないといけないところだと思います。貴校であげている重点目標にあるように、教員自身も教育の質を上げていくように取り組むという視点はとてもいいと思います。

石川：高槻市医師会看護学校からの進学者も多く、学校の様子を知っていただくことで、安心して学生を進学させていただけるよう、本校も努力していきたいと思っています。大阪下の学校に限らず、遠方の学校からの受験生はやはり、先輩がいたということ

で、つながっています。在校生を大切に育て、実際に入学して学んだ学生からの話を聞いて入学したいと思ってもらえるようにつなげていきたいと思います。希望者就職も大阪府下で約 80%、また、オープンキャンパスに参加していただいた方の受験者が多く、受験生の 80%近い学生がオープンキャンパス参加者ということもあり、本校をまず知ってもらえるように、できるだけオープンキャンパスの参加者も増えるように取り組みたいと思います。学校訪問もできるだけ行きたいところですが、状況の変化もあり、なかなか訪問できずにいます。可能なようなら、アプローチしていきたいと考えています。

辻：資料にあるように5つのディプロマポリシーとつながって教育していくという視点も大切だと思います。

石川：本校の、科学的思考に基づいて、思いやりを持って、コミュニケーション能力など5つをあげていることを意識させている。学生はすぐに何のために今学んでいるのかを忘れてしまいますので、教室にもディプロマポリシーを掲示し、教員も意図的につなげるように学生に声をかけ、意識づけしています。

学生便覧

本校の教育理念、各学科の教育目標に沿って設定した授業科目を履修して、基準となる単位数を修得し次のような目標を達成したものに専門士を授与する。

1. 科学的思考に基づき対象に応じた看護実践ができる。
2. 生命と人権を尊重し、人を愛しむ思いやりのある共感的態度を身につけている。
3. よりよい人間関係を形成するためのコミュニケーション能力を身につけている。
4. 向上心をもち学び続ける力を身につけている。
5. 看護の役割を理解し、対象者を含むチームメンバーと連携・協働できる。

小林：実習調整をしています。私自身も卒業生で、学校で教えてもらったことが仕事を始めてからも看護を考える基盤になり、働くことにつながっています。本校の教育と自分自身の看護観がつながっていると感じています。少しでも学校に恩返しできようと思っています。学生に対しても対話をしながら、臨地実習に出ていきたいと思えます。

濱田事務長：学校では、入試に携わることや、運営会議、法人の意見の共有、卒業生などの病棟での様子をお伝えすること、学生の様子についてなど話し合いをしています。最近では病院でもそうですけど、遅刻など生活態度の面などは整えて臨むべき点も

あるので、そういった点は学生のうちから育てることも必要と感じています。

昨年度アンケート結果からトイレの洋式化の希望が多かったことから、法人としても順次取り掛かれるようにと考えています。病院内部も同じようにトイレの洋式化を進めているところで、今後順次進めていきます。

石川：学生のアンケートではソフト面の満足度は非常に高いのですが、トイレの洋式化も含め、教室の机の整備などハード面に対しては満足度が低くなっています。法人の協力をいただきながら学生を育てることに向かえるよう、少しずつ整えていけたらと思います。

VII. 評価

委員長 山本

今年度の重点目標、中期目標について妥当と思われる。今年度実施される計画についても学生の学ぶことへの意識づけの強化、学習環境の調整など計画があげられ適切と思われる。

VIII. 学校長による総括

第三者の目はとても大切だと思います。病院でも他の人がはいることで、これでいいか、これは何故なのか、と気づくことがある。慣れると見えないことがある。そういった意見を素直に受け入れる感受性も大切で、外から見える目というものはとても大切だと思います。このような機会はとても勉強になります。

重点目標で上がっていることですが、どの職種をみても、常にコミュニケーションを意識したものはそんなにない。この仕事だからではないでしょうか。そこに教育の必要性があることに気づいていけばそれが「イキイキ」としたものへとなり、素晴らしいことと思えてくるのではないのでしょうか。教科書の中を勉強するのではなく、現場の生の様子を聞き、肌で感じる事が学ぶことには大切です。また、学生の学び方は、はじめが大切。ここでの経験、熱意も影響する。本日は貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。

これからもご支援をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

VIII. その他

次回の会議日程 2025年3月14日（金）14：00

本校図書室にて会議となります。